

放射線利用の高度化 より安全で、より有効に利用するために



キーワード 放射線計測、放射線発生装置、非破壊検査

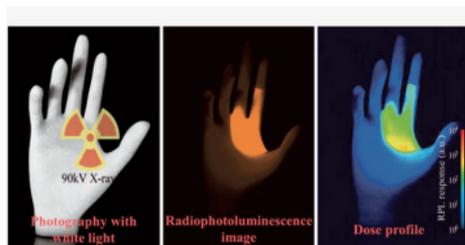


佐藤 文信 SATO Fuminobu

環境エネルギー工学専攻 教授

環境資源・材料学講座 量子線生体材料工学領域

ここがポイント!【研究内容】



放射線業務従事者の手の線量評価

線量分布が可視化できるラジオフォトルミネッセンス線量計樹脂製の手ファントム

放射線に関する計測手法や応用を中心に研究しています。放射線・放射性同位元素 (RI) の利用は、工業、医療を始めとした幅広い分野において重要な技術となっています。その一方で、福島第一原発事故による放射能汚染、廃炉作業などの技術的な課題もあり、放射線・RI について取り組むべき研究テーマは多くあります。そこで、線量分布の可視化技術の開発、放射線発生装置の開発と応用などに取り組んでいます。さらに、放射線をより安全に利用するために、放射線防護、放射化物の評価手法についての研究にも取り組んでいます。

応用分野	非破壊検査、医療診断
論文・解説等	[1] R. Yamauchi et al., <i>Nuclear Inst. and Methods in Physics Research</i> , A986 (2021) 164700. [2] F. Sato et al., <i>Radiation Measurements</i> , 124 (2019) 137-140. [3] 佐藤文信, 放射線計測とその可視化技術, <i>Techno Net</i> , 589, (2020) 4-5.
連絡先 URL	http://www.see.eng.osaka-u.ac.jp/seeqb/seeqb/

